

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800291		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム おおきな家 東館		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目4-6		
自己評価作成日	令和6年3月22日	評価結果市町村受理日	令和6年5月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0175800291-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年4月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム前庭には道路挟んで公園があり、どんぐりの木、桜の木がこれからの散歩季節を皆様に知れさせて下します。スロープを通り抜けると長椅子の設置がありゆったりと皆様と美味しい空気を吸いながら歌をうたい冗談話で笑いが弾み軽いレクも楽しめます。その場にご近所様が犬を連れて散歩途中寄って下さり皆様が大喜びで関わっており活性があります。皆様の散歩の途中ご近所様とお会いしご挨拶が笑顔に変わって嬉しい日がございます。居間の大きな窓からは陽が射し午前中は暖かな日差しの中でレクを楽しみ、皆様のお部屋からも四季折々の自然景色を楽しみスタッフとお部屋で話し込む場合もありまして、「ここはいい所ですね」~とお褒めを頂きます。個々の皆様の関わりが違っても皆様の一言を重んじながら着かず離れず家族様とも一緒に過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長沼町内の周囲に田園風景が広がる住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。玄関前に小公園があり、気軽に散歩や外気浴を楽しむことができる。建物は清潔で、南に面した窓から光が差し込み、明るく快適である。浴室やトイレは比較的広く造られ、エレベーターも設置されている。居間では利用者が皆で歌を歌ったり、百人一首などをして楽しみ、賑やかな雰囲気となっている。町との関係では、運営推進会議の他、町内の介護、医療関係者が集まる地域ケア会議で町の担当者と情報交換しており、連携している。身体拘束の廃止では、委員会と研修が必要な回数行われ、禁止事項を確認して身体拘束をしないケアが実践されている。家族意見の反映については、得られた意見や要望を「家族様との連携」というノートに利用者別に詳しく記載しサービスの向上を図っている。医療受診や看取りに関しては、希望する医療機関への通院を支援し、看取りの体制を整えている。また、受診記録や看取りの経過記録も整備されている。食事の面では、彩りや品目が豊富で美味しい食事が提供され、利用者も後片付けなどを手伝っている。事業所の畑でとれた野菜も食卓に上っている。外出支援については、日常的な散歩や外気浴、買い物、通院の機会があり、今後は感染症流行前に行っていた外出行事も再開する予定としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆様の目に留まる廊下に掲げた理念を朝、夕の申し送り時に確認、実践に繋がるように務めております。	4項目からなる理念の中の「みんなとともに」という文言に、地域のみならずともという意味を込めている。理念を廊下に掲示し、各職員は理念を理解し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は春の「お花いっぱい運動」に参加でき花壇整理、花植えで交流があり、回覧板の行き来でも他の介護事業所等の情報も得られております。「道路状態、お花開化状態」等。	周辺を散歩する際に、住民と犬や花の話題で会話するなどの交流をしている。地域の花植えや清掃活動の行事に利用者が参加している。地域のお祭りで神輿が事業所前を通る際には外に出て見物している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花壇お手伝い時、犬の散歩中の方、公園での近所様との関わり等を通して認知症の方との自然なふれあいをさせていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症が長引き家族様とは緊急時以外玄関先面会、電話対応です。家族様来所時には「感染症対策、虐待防止学習の書類渡し家族様の要望、助言もお願いし後日電話で評価を頂く等考えております。	前年度は運営推進会議を1回開催した。町職員、区長、地域代表、複数の家族が参加し、感染症の研修やターミナルケアをテーマに話し合った。参加できなかった家族への議事録送付は行ってない。	運営推進会議の回数の増加と、回数に応じたテーマの多様化を期待したい。また、不参加の家族に議事録を送付し、意見をj得ることも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課担当部所へ法人担当者が出向き必要書類の届出運営状況を伝え連携に努め感染症案件では保健所からの文書指導、助言を得て対策を話し合い管理者は町主催地域ケア会議参加事例検討情報交換多くの職員出席研修受けを勧めている。	運営推進会議に町職員の参加を得ている。町内の介護、医療関係者が集まる地域ケア会議に管理者が出席し情報交換している。各種の手続きについては法人本部を通して役場に相談している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止指針定め法人合同の虐待防止・身体拘束廃止・感染症委員会を3か月事開催、内部研修を実施している。会議内容は職員に伝達し禁止対象行為を関わりの中で、敏感に声掛けながら対応し、疑問は話し合い即実行に務めております。	身体拘束を行っておらず、身体拘束廃止委員会を3か月毎に行い、その中で事例検討を行っている。また年2回の勉強会の中で具体的な禁止事項を学んでいる。玄関は日中施錠せず、出入があればセンサーで分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員は日々の申し送り時に疑問がある場合、虐待内容を確認、言葉使い、態度等に共通の理解を深めます。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度、に関して資料で学習するように努めているが、事例が無く学習の継続としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時利用者様、家族様に十分丁寧に説明を行い納得頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来訪時現在の様子の心身状態をご説明いたします。特に新人様家族様からのお話には細やかに話つきりと話し心配部分は家族様からの意見も引き出しながら日々の関わり業務に大いに役立らせていただいております。	家族が来訪した際に話を聞き、意見や要望を「家族様との連携」というノートに利用者別に記載し共有している。また、毎月個人ごとに写真入りのお便りを作成し家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人本部は定期、週に1度また必要時に職員とのミーティング機会をつくり意見提案を聞く機会を作っております。	職員は毎日の申し送りで活発に意見交換している。管理者は週1回、本部で会議に参加している。職員はいつでも管理者や法人の理事長と相談ができる。各職員は行事など各種の業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部は個々の職員の能力、努力、実績、勤務状態等を把握し適材適所へ配置するように心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で無理ない範囲で研修を開催しております。参加できなかった職員には資料を配布し個々に学べるように配慮しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いまだかつて感染症予防時期ですが、長沼町で開催地域会議参加し。事例などの検討を行い学習内容を業務に役立させております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境変わって初めての暮らしの不安を解消すべく原因をご本人の気持ちから読み取って細かく寄り添って参ります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に見せる気持ちと飾って見せる奥の本心を察知致しながら、家族様とも寄り添い言葉と行動で関わりを深めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様とまず必要支援を今までの生活習慣から引き出し、家族様とも決めて参ります。他の資源も倍によって参考に考えて参ります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はお一人お一人の個性を尊重しあい家族的な雰囲気と共に支え合いながら関係作りを築いてまいります。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者様の情報を家族様と一緒に把握し悩み助言し良い方向へ向くように互いに支え合って参ります。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様、親族様、友人、ご近所様には気軽に来所姿勢を心がけており、制限の中は、室外では暖かな季節、前庭、公園面会と行っており、冬は玄関先での面会継続しお付き合いが途切れないように支援に務めております。	3分の1ほどの方に元の近所の住民などの知人が来訪している。2~3名の方が馴染みの美容院に通っている。家族と一緒に買い物や食事に出かける方もいる。感染症が落ち着いたら以前行っていた馴染みの公園に花見に行く予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を重んじながら孤立、トラブルがあっても職員は、「距離を置き」自然に仲直りに結びつける努力を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が転院され契約が終了されても行先の相談員様との情報交換、家族様との連携もされております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	最近入居された方の日々の生活に緊張感、戸惑いに、ふとした言葉かけで、喜びと、安心感が一言で伝わった様です。「燃えないゴミ整理」言葉かけ	8割ほどの利用者は言葉で思いや意向を表現できる。基本情報に生活歴を記載し、課題分析概要シートに趣味や嗜好を記載しているが、趣味や嗜好の情報をさらに充実したいと考えている。	課題分析概要シートの趣味や嗜好の情報について、さらなる充実を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人、おひとりの馴染みの暮らし生活環境の変化に戸惑っても徐々に慣れていられるよう言葉かけ一緒に行動共に寄り添う生活が出来ますよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人、おひとりの有する力を「畑、縫物、かるた、唄、民謡、相撲見、お話、台所仕事」等で頂いております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師、職員、看護師、家族様代表、ご本人含めて、この度、看取りを行いました。未熟でも誠意を込め日々話し合いの元、記録を残しながらケアさせていただきました。	3か月毎に介護計画を更新している。モニタリング表で評価を行い、更新時の検討内容も適切に記録している。個人記録は計画目標のチェック欄はユニット間の差があり、また、支援内容等の具体的な記載は十分に行っていない。	日々の記録について、目標項目の実施状況、支援の内容、利用者の様子などを記録し、次の計画作成に活かすことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りノートにその日の個別のきずきを記録し早番、日勤、遅番、夜勤者に、口頭でも送りとして、伝え結果も次に把握するように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに応じた支援資源、職員同士の情報、家族様、本部への聞き取りを集約しケアサービスに繋がるように努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域福祉サービスを把握し利用者様、職員とで昨年は、秋お祭り、今年はお花植えに参加させていただきました、心身リフレッシュしていただきました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の思いを尊重し入所前からのかかりつけ医の継続出来ております。病状の状態で町外の訪問診療を受けられている方もおります。週1度の訪問看護師の健康管理支援がございます。	14名の利用者は月1回程度、協力病院に通院している。4名の利用者は個々のかかりつけ医を定期受診しており、家族または事業所で通院を支援している。受診内容を個人ごとの「受診経過記録」に分かりやすく記載している。	

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々個々の内科、外科の経過、気がかりがあると看護師の判断を仰ぎ、即受診、経過見等で快方へ向けられるよう勤めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状態の把握家族様との連携、相談員様と早期退院に向けても情報交換深めます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の入居時「重度化対応・終末期ケア対応指針」説明同意得る。家族さまのご希望に添うように早い時点で細やかな判断を頂きながら随時対応させていただきます。看取り 田中テル様 6.1.24 死	利用開始時に「重度化対応に関する指針」に沿って事業所の方針を説明し、同意を得ている。最近1名の方の看取りを行った。また、看護師による看取りの勉強会も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な応急手当、処置訓練は無いが、必ず緊急時には今まで携わった経験から知恵を出し合い、看護師の指示頂きながら対応行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災地震想定避難訓練実施している。避難経路確認、避難方法身に着けているが、昨年受けていない人を中心に行った・救急法の研修・時間差で	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防の指導のもと行い、救急救命訓練も実施した。近くの法人の関連施設と災害時に協力できる。地震の対応に関する話し合いを実施しており、今後、地震対応に関するマニュアル等を設置する予定である。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの接遇は、話をよく聞き一緒に判断できるように会話を深める努力おこなっています。排便失敗に何気なく素早くサッと片付け終わらせております。	法人の社内研修で全職員が毎年接遇の研修を受け、日常的な言葉かけに活かしている。申し送りは利用者に聞こえないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴をどうしても一人で希望の場合、、、不安を除くべくゆっくりと話し「滑って転ばないように守らせてください」と納得いただきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭の延長と今の生活リズムと重ねながら過ごしやすく安心安全な方法を一緒に考えております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時、特に家族様との食事会の場合洋服、靴、バックを一緒に選び楽しんでいただきます。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さがたの嗜好と量を常に情報し合い食事提供。コップ下げテーブルの上食器かたづけ、一緒におこなうが一緒にの食事準備は出来ておりません。	本部で作成したメニューにより、事業所内ですべて手作りされ、正月や誕生日には特別な料理も喜ばれている。利用者は食材の下ごしらえや食器の後片づけなども職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	皆様の食事習慣、形態を把握しながら支度行い、水分は必ず記録少ない方には違う水分の、工夫を行う。お箸で頂ける方にはこぼしが多くとも見守ります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食事後、自立されていても見守り行い、舌の違和感訴える方に舌ケアを食事後介助行います。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を把握し皆様がトイレで排泄可能を実感し、排泄に繋げている。	トイレでの排泄が自立している利用者は、5割程度でその他は、排泄記録をもとに排泄パターンを把握し、適宜誘導したり、衛生用品の交換を行ったりしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便意長引かれる方のパターンを周知、食材の工夫繊維質多く、水分の内容分量吟味、腹部の温め工夫などで便秘の解消。これからの外の散歩も有効。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	心身の変化に応じて無理強いはせず日を改め入浴に。不安な方には湯船に入って頂き、現実での楽しいお話を続け空気とんで入浴頂く。	土日以外の午後の時間帯で、各利用者が週2回程度入浴している。重度の利用者もできる限り湯船に入ることができるよう支援している。希望があれば同性介助とし、一人ずつゆっくりと時間をかけ会話を楽しむ時間も作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様のペースに合わせて、遅い方は一緒に居間でテレビ鑑賞、昼寝しない方は自然にお休みされており、夜間の巡回お伝えすることで、安心されて休まれる方もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとり投薬が異なるが、眠剤で睡眠の変化が強くある場合、即、事情説明投薬の変更を行って頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おやつ午後はコーヒータイム。果物好き嫌いがある場合、量は変化少なく異なる品をお出し。お花、観葉植物お世話、縫物、ウエス切り、畳む、新聞たみ、等 皆様と語りながら楽しみます。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(東館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏～秋の日中]時間交代で近隣公園散歩、近所の方が犬と一緒に笑顔で参加。ホーム前庭ベンチに座り体操楽しみ声を出し唄も皆様に歌い、秋の収穫、大きなサツマイモが掘れ皆様とびっくりしながら調理方替え美味しく戴きました。家族様とお出かせられ笑顔でお帰りの方もおります。	日常的に、散歩や事業所の向かいの小公園で過ごし外気に触れる機会を作っている。畑で野菜作りをし利用者の楽しみとなっている。感染状況をみながら花見にいく予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人、入居者様には小銭1000円くらい持って頂いておりますが、家族様のご希望で安心しますからとのことでございます。使える支援は現在はできておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	離れた家族様から電話がある場合、入居者様へ取次支援おこなっております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりと居心地よく日々過ごせますように環境作りに心がけ午前中は大きな窓から陽が一杯さし皆様のお部屋も快適に生活が出来ますように室温、湿度の配慮に務め、居間の窓からは雪解けから草花の芽吹き、公園、車の往来が見られ近隣の生活や季節感が感じられます、	回廊式の廊下と中心に食堂・台所・スタッフルームがあり、楽しい会話や職員と一緒に歌を歌う声が聞こえ明るい雰囲気である。居間の大きな窓からは、公園や通行人の様子が見え、外の様子を感じられる。トイレや浴室は広々としており手すりの設置もされ、安全面に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々にその日の動きが有りお部屋で寛ぎ声掛けて出てこられ、お部屋で気の合った方とおしゃべりされていたり、自室でテレビ鑑賞されたり、とゆったりとフロアで昔話に花を咲かせてもおります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家での慣れ親しんだ道具、寝具、仏具、写真趣味の品等有ることで環境が変わっても安心された生活が徐々に出来ていけますように言葉掛けと行動で寄り添った声掛けをさせていただきます。	居室には、介護用ベットが備え付けられており、利用者の状況に合わせて、歩行器や車いすが用意されている。家族の写真や使い慣れたイスなどの家具を持参し居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内部は入居者様が迷うことが無いように廊下から居間まで回廊になり、手すりが壁側にぐるりと回っており、段差が無く、トイレも車いす対応できています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800291		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム おおきな家 西館		
所在地	夕張郡長沼町西町1丁目4-6		
自己評価作成日	令和6年3月28日	評価結果市町村受理日	令和6年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご入居様一人ひとりの思いやそれまでの生活習慣などを大切に、その人にあった生活スタイルを持続的に提供できるよう支援に努めています。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvsoyCd=0175800291-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年4月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員と管理者は「ゆったりと楽しく自由に、ありのままに暮らしの喜びと自信をみんなと共に」の理念を念頭にご利用者がより良い生活を送れるよう支援にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、町内会に加入し「花いっぱい運動」や「清掃活動」に職員がご利用者様と一緒に参加したり、今年度はコロナ禍で実行できなかったが夏祭りなどの行事にも近隣の方々をお誘いし交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は、認知症についての共通の理解を持てるよう職員の研修会参加を促進し、またコロナ禍で実行はできていないが日々の実践での支援方法を如何に地域の人々に理解して頂けるかまた発信していけるか努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、当事業所での取り組みについて報告し、ご家族様や地域の方の意見をお聞きし話し合いをもって今後のサービスに反映できるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所は、市町村担当者と連携し協力関係を築くよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者と事業所職員は身体拘束の具体的な行為について理解を深め、お互いに情報交換をし協力を仕合い身体拘束のないケアを目指している。またご利用者様の安全に配慮し努めております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員や管理者は、研修会等に参加し、高齢者虐待防止法について理解を深めるよう努め、虐待のないケアを目指して実践している。ご利用者様の心身の状態確認を常に行い全ての職員間で情報交換し見過ごすことがないように努めている。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員や管理者は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修会等学ぶ機会があれば参加するよう努めている。現在まで活用した支援はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ご本人様とご家族様の不明な疑問点がないか傾聴し、不安な事があれば分かりやすくご納得頂ける説明ができるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所において、ご家族様の来訪時やお問い合わせ時等に、ご利用者様の現状態をお伝えし、ご意見ご要望をいつでも遠慮なく訊くことができるよう努めている。お聞きしたご意見、ご要望を運営に反映できるよう常に検討しております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員と毎日の申し送り及び業務の中で常に情報、意見の交換を行い日々のサービスに繋げている。また、代表者は職員の意見や提案を聞くミーティング会議を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部は個々の職員の能力、努力、実績、勤務状況等を把握し適材適所へ配置するように心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で無理ない範囲で研修を開催しております。参加出来なかった職員には資料を配付し個々に学べるように配慮しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナ禍で実行できていないが、代表者は、職員及び管理者が地域の同業者及び同業他業種との合同研修会等でネットワークの機会を作り意見交換をしサービスの質の向上をさせていく取り組みができる準備がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所では、ご本人様、ご家族様からこれまでの生活環境や情報をお聞きした上で、困っていることや不安なこと、抱えている問題、ご要望等を傾聴し安心してサービスを受けることができるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所では、サービスの利用決定時及び開始時開始後それぞれにおいて、ご家族様が不安に思う事、困っている事、ご要望ご不安を傾聴し問題点等を確認の上で、より良い信頼関係を作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所では、ご本人様、ご家族様の思いと現状をお聞きし今一番必要とされる支援を見極めるよう努めている。また他のサービス利用も可能であるか否かを常に検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご利用者様一人ひとりの人格個性を尊重し、一方的な介護にならぬよう家族的な雰囲気では生活を行ってお互いに信頼し合える関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族様に、ご本人様の心身における変化やその状態、また生活状況について連絡を密にとり相談をすることでご本人様とご家族様のさらなる絆を深めて頂き、また、ご家族様と職員と一緒にご本人様を支えていける関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所は、ご家族様ご親族様、ご友人様にいつでも来訪して頂きたいという姿勢を心がけている。今年度はコロナ禍で制限はあったが人間関係を途切れさせないよう暖かい季節は前庭で面会して頂く、ご希望の時間にお電話で通話して頂く等これまでの関係が途切れないような支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、ご利用者様一人ひとりの個性や生活習慣を把握し、孤立やトラブルが極力起きない方向で声掛けをし、ご利用者様同士がお互いに支え合え良好な関係を作れるようサポートしている。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所では、ご利用者様が入院をされた場合は、馴染みの関係が崩れないように職員が病院へ会いに行き状況を聞き相談支援をするよう努めているが、今年度はコロナ禍で実行できず、ご家族様の相談と関係支援の断続を努めるに留まった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所は、ご利用者様の思いや意向をお聞きし、これまでの生活環境やご家族様からの情報を元に暮らし方の希望の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所は、ご本人様やご家族様からの生活歴や生活環境などの情報や利用されているサービスの経過を把握することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事業所は、ご利用者様一人ひとりの日々の過ごし方の中で、ご本人様の心身状況の変化や、出来る事、出来ない事を把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員、必要な関係者各位は、ご本人様の心身状況やその時々思い、またご家族様のご要望等を聞き話し合い介護計画に反映させている。計画に沿った介護が実行されているかモニタリングを実施し検討し計画の作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、ご利用者様の個別ファイルに、支援内容や一日の生活行動、会話内等を記録し職員間で情報を共有し日々のより良いケアの実践に繋げている。それは、介護計画の見直しにも生かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所は、利用者様やご家族様の状況に応じて発生するニーズに合わせた柔軟なケアサービスが出来るように、有効な支援資源について職員間で情報交換しそれを情報提供ができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所は、地域福祉サービスや医療機関を把握し今あるニーズに即対応できるよう努めている。今年度はコロナ禍で実行できなかったが、ご利用者様が町内会の行事に職員と参加し豊かな生活活動ができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は、ご本人やご家族の希望を尊重し入居前からのかかりつけ医に継続して受診ができるよう支援している。専門医の受診も行い適切な治療を受けて頂けるよう支援している。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には、非常勤だが看護師が配置されておりいつでも変化に対応できる体制ある。介護職員はご利用者様の健康状態の把握、心身の変化に気づくように努め、状況に応じて看護師へ報告、連絡、相談し適切な看護や受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	事業所は、ご利用者様が入院した際に安心して治療に専念できるよう、そして早期退院にむけての情報交換や相談を病院関係者と頻回に行うよう努めている。また、定期の受診時や訪問診療等で、情報共有し病院関係者といつでも協力できるような関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所は終末期や重症化した場合の在り方について、ご本人様やご家族様と早い段階で話し合い家族様の希望に添うように対応を行ないます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年にわたるコロナ禍において、全ての職員が定期的に応急手当や初期対応の訓練を受けている状況ではない。職員個別には町内で主催する応急手当の研修会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所では、年2回ほど火災や地震を想定し避難訓練を実施している。避難経路の確認や実際の避難活動、消火訓練を実施し職員は避難方法を身につけているが全職員ではない。コロナ禍のため近隣住民の参加は得られていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、一人ひとりの人格の尊重、尊厳の保持、プライバシーに配慮したケアをするよう日々心がけている。、心配りのない声かけや言葉使い、また配慮に欠けた対応があり職員間で注意をしながらケアに取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が自己決定や思いを表出しやすいようにし表情の観察から自己決定がしやすい促しができるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、ご利用者様それぞれの生活リズムを尊重し、一人ひとりのペースを優先することで、自由にありのままに自分らしく過ごすことができるようご希望に沿い支援していくよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所では、ご利用者様のご希望に沿い、鏡の前で髪を整えて頂いたり、お鬚剃りのケアをしたり、毎月のヘアカット、外出の際の洋服選び等、出来る限りその人らしい暮らしができるよう支援している。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、ご利用者様の嗜好を把握し、食べる力を考慮して食事を提供している。よほどの体調不良がない限りご利用者様の全てがお食事を楽しみにしており全量召し上がっている。食材の下準備を一緒に行うことがあるが食後の後片付けは職員のみとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所では、ご利用者様の一人ひとりの食事習慣や食べる力の把握に努めている。また、ご利用者様一人ひとりの水分量や食事量のチェックをファイリングしそれぞれ一日の適した摂取量が確保できるよう記載により職員間で情報共有し適切な支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の起床時、毎食後の口腔ケアを個々の状態に応じて声掛けや介助により支援している。義歯の方は就寝前に洗浄の支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、ご利用者様一人ひとりの排泄チェック表で排泄パターンを把握しトイレで排泄ができるよう支援している。ご自身で出来る事はして頂きトイレ通所における一連の動作が定着し少しでも長く自立できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、ご利用者様一人ひとりの排泄チェック表を用いて排便パターンを把握し、便秘予防のため水分摂取、運動の声掛けをしている。また職員間での情報共有により便秘の原因と便秘による悪い影響の理解に努めている。便秘になってしまった際は、主治医と相談し必要に応じて服薬しスムーズに排便ができるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所では、入浴の際にご利用者様個々のご希望、体調の変化に応じて柔軟に入浴を楽しんで頂いている。入浴を拒否される場合は、時間や日を改めるなどして週2回の入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	事業所は、ご利用者様それぞれの体調や気分に合わせて休養して頂き、日中は体操やレクリエーションなどで体調を整え気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容書はスタッフ全員が見ることができるよう個別のファイルで保管し薬効、副作用について理解ができるようにしている。薬の変更があった場合は記録と申し送りを適切に行い、状態によっては主治医や薬剤師に相談し調整しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所は、ご利用者様一人ひとりの生活歴や嗜好、力の把握に努め、ご本人の状態にあった力を発揮できるよう支援している。コロナ禍のため数々の季節行事等が中止や延期となったがホーム内の飾り付けやぬり絵、お誕生会等で気分転換の支援をしている。張り合いと役割についてはご利用者様一人ひとりのパワーバランス格差で提供できていない。		

グループホーム おおきな家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(西館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所は、ご利用者様一人ひとりのご希望に沿うべく外出支援する準備はあるがそれでも悪天候や冬季以外はご出来る限りホーム前庭において日光浴の支援をしている。また野菜畑があるのでその手入れや収穫には出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、ケアにおける金銭所持の良い影響を理解しており、ご希望のご利用者様には小銭を持って頂き、他は預かり金として事業所で管理しご本人様の要望により使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所は、ご利用者様からの要望があれば支障がない限り、大切な人に電話をかけるお手伝いや手紙での交流ができるように支援している。必要な場合は代筆をする準備がある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は、ご利用者様が、ゆったりと居心地よく過ごせるような環境作り、また安心安全な分かりやすい配置に努めている。快適に生活ができるよう室温や湿度、採光などの配慮に努め、窓からは庭の草花やご近所、公園などが見え近隣の生活や季節を感じることができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員は、ご利用者様の独りの時間、または気の合った方とゆったり楽しめるようにその時々に応じて座席やスペースに配慮し、その場の雰囲気作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は、ご利用者様やご家族様と相談の上で、慣れ親しんだ道具や、ご自宅で使用していた家具、思い出のお品やご家族の写真等を持ってきて頂き、安心して落ち着いた生活が心地よくできるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、ご利用者様が迷う事なく解りやすい空間配置となっている。自立した生活を長く過ごして頂けるよう手摺の設置、家具の場所などスムーズに行動できる環境づくりに努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム おおきな家

作成日：令和 6年 5月 8日

市町村受理日：令和 6年 5月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の回数の増加とテーマの多様化の期待があった。	回数、内容について、本部との話し合いを重ねたい。	不参加家族様には議事録の送付。要望意見を電話または来所時に得て、内容を日々の仕事に反映出来る様努めたい。	1年
2	26	チームで作る介護計画、個人支援記録内容の具体的記載が不十分である。	チーム 話し合いの元様式作成行っていきたい。	プランと日々の記録が一致出来る様、個々の様式作成進めていきたい。	1年
3	23	一部の入居者様の趣味、嗜好の記載情報の不足がある。	思いや意向を表現できない利用者様の聞き取り方法を考える。	家族の聞き取りから始めていきたい。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。